



第4回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育(ESD)研究大会 「ESDの実践上の課題解決に向けて」

——抄録集——

開催日：平成25年1月26日(土)

会場：国立大学法人奈良教育大学

第4回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育(ESD)研究大会

抄録集

平成25年1月26日(土)

国立大学法人奈良教育大学

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

国立大学法人奈良教育大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

後援：外務省 環境省 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会 全国連合小学校長会

全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国国公立幼稚園長会

日本私立大学協会 一般社団法人日本私立大学連盟

日本私立中学高等学校連合会 日本私立小学校連合会

全日本私立幼稚園連合会 社団法人日本PTA全国協議会

全国国立大学附属学校連盟 一般社団法人国立大学協会 日本教育大学協会

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivnet)

株式会社教育新聞社

目 次

◆開催によせて

文部科学大臣 下村 博文	3
日本ユネスコ国内委員会副会長 金澤 一郎	4
国立大学法人奈良教育大学長・ASPUnivNet代表 長友 恒人	5

◆大会日程

◆会場案内

◆第1回SEAMEO-Japan ESD Award 受賞校紹介

◆特別授業

テーマ 語りとESD 「声に出して感じる自然のうつくしさ～やまなしを中心に～」

特別講師 平野啓子（語り部・かたりすと／初代日本ユネスコ国内委員会広報大使）

学 校 奈良教育大学附属中学校1年生

◆テーマ別交流研修会

第1分科会 地域・博物館・企業・NPO等との連携	13
第2分科会 大学との連携を通じた質の向上	14
第3分科会① 学校間交流 国内	15
第3分科会② 学校間交流 海外	16
第4分科会 ESDの校内浸透・連携と活動の継続性	17
第5分科会① 教科・学習指導要領とのリンク（幼稚園、小学校）	18
第5分科会② 教科・学習指導要領とのリンク（中学校、高等学校）	19
第6分科会 コミュニケーション能力・問題解決能力とESD	20
第7分科会 国際理解教育	21
第8分科会 環境教育・生物多様性	22
第9分科会 ESDと評価	23

◆シンポジウム

「グローバル社会に通用する人材をESDでどのように育てるか」

◆ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動の紹介）

◆ユネスコスクール一覧

◆持続発展教育（ESD）大賞について

◆協力企業・展示団体一覧

第4回 ユネスコスクール全国大会 持続発展教育 (ESD) 研究大会開催に寄せて



文部科学大臣 下村 博文

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。古都奈良において、第4回ユネスコスクール全国大会が開催できますことをうれしく思いますとともに、開催に当たり御尽力いただいた関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、本日のテーマは「持続発展教育 (ESD) の実践上の課題解決に向けて」となっております。この持続発展教育 (ESD) については、2002年の第57回国連総会において、我が国の提唱により、2005年から2014年を「国連持続可能な開発のための教育の10年 (DESD)」とすることが決議され、以降、ユネスコを主導機関として持続発展教育 (ESD) の推進に世界的に取り組んで参りました。DESDの最終年にあたる2014年には、ユネスコと我が国の共催により愛知県・名古屋市、岡山市において「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」が開催されることとなっております。特に、岡山市では「ユネスコスクール世界大会」が開催される予定です。このように、ユネスコスクールやESDへの日本の取組・貢献は2014年に向けて、これまで以上に注目を集めているところです。2014年のユネスコスクール世界大会の成功に向けて、現場の教員の方々、各教育委員会及びユネスコ関係団体の皆様のますますの御尽力に期待しております。

我が国ではユネスコの国際的な学校間ネットワークである「ユネスコスクール」をESDの推進拠点として活用しておりますが、このユネスコスクール加盟校は昨年12月現在で550校に至っております。数の増加のみならず、ユネスコスクールとしての活動の質を確保することが重要であることから、日本ユネスコ国内委員会では、昨年8月にユネスコスクールガイドラインを策定し、都道府県教育委員会等を通じ広く周知いたしました。

我が国のユネスコスクールは、ESDの理念の下、環境教育、国際理解教育、世界遺産教育等の個々の分野の取組をつなぐとともに、国際的なネットワークの構築に努めていますが、各校には、今後その活動の充実をさらに図っていただきたいと考えております。

今回の第4回ユネスコスクール全国大会では、教育現場でのESD実践上の課題解決に向けて、教育活動のあり方や進め方、授業方法や教材の開発、活動の継続性などの課題をどのように乗り越えるかを先進的な事例を取り上げながら、解決策を議論することを目的としています。ESDは将来にわたって持続可能な社会を構築するために問題意識を持ち、人と意見を交わし、共にあるべき方向に向かって行動する人材を育てる教育です。ESDが学習指導要領の示す「生きる力」の育成にどのように具体的に貢献することができるのか、本日お集まりの皆様方とともに考えていければと思います。

また、文部科学省は、東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) 加盟国内においてESDの顕著な取組を行っている小中高等学校を表彰するため、「SEAMEO-Japan ESD Award」を創設しました。今回の大会には、第1回第1位受賞校として、ミャンマーよりクンジャンゴン郡立第一高等学校が参加しており、「防災」についての取組を報告していただくこととなっております。

最後になりますが、本大会開催に当たり、関係の皆様の大なる御支援、御協力に改めて感謝申し上げますとともに、本大会が御参加の皆様にとって実り多きものとなりますよう盛會を祈念し、挨拶に代えさせていただきます。



日本ユネスコ国内委員会 副会長 金澤 一郎

第4回ユネスコスクール全国大会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。2002年の第57回国連総会にて我が国が世界に提案した「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」は、私たち人類の未来を賭けた教育のイニシアチブとして、ユネスコがその主導機関となり世界的な取組を進めているところです。

日本ユネスコ国内委員会では、我が国におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査を行う機関として、これまでにいくつかの提言・建議を関係大臣に提出し、日本におけるユネスコ活動、とりわけ近年は持続発展教育（ESD）の振興に努めているところです。

2008年には、教育振興基本計画が策定され、ESDが我が国の教育の重要な理念のひとつと位置づけられましたし、またESDの理念は学習指導要領で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものであります。2009年3月には、学校教育におけるESDの推進やユネスコスクール活動への支援を求める建議を文部科学大臣等の関係大臣に提出しております。そして、これらを礎として、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコスクール加盟校の増加に取組み、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」が始まった2005年には19校であった加盟校は、昨年12月現在、550校と飛躍的に増加しております。日本ユネスコ国内委員会ではユネスコスクールの増加に伴い、質の確保の重要性に鑑み昨年8月にユネスコスクールガイドラインを策定したところであります。

「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」も、最終年となる2014年まで残すところあと1年となりました。2014年には、「持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」を愛知県・名古屋市と岡山市で開催する予定であり、国際社会においても日本のESDへの注目が高まっているところであります。ESD提唱国である我が国では、教育現場のみならず、地域社会、民間企業、NPO等社会全体で持続可能な社会の担い手づくりに取り組んでいくことが重要であり、その成果が2014年の世界会議に向けて集大成されていくべきものと考えております。

ユネスコスクールは学校間ネットワークであることから、それぞれの学校活動の充実とともに、国内外の学校間の交流を盛んにしていくことが必要です。本大会を契機により一層学校間ひいては地域の関係機関の交流を深めていただきたいと存じます。

最後に、本大会開催に当たり、関係の皆様御尽力に改めて感謝申し上げます。本大会が御参加の皆様方にとり実り多いものとなりますよう祈念するとともに、引き続きユネスコ活動の推進とESDの普及にお力添えをお願い申し上げます、私の御挨拶に代えさせていただきます。



国立大学法人奈良教育大学長・ ASPUnivNet 代表 長友 恒人

第4回ユネスコスクール全国大会の開催にあたり、会場大学として、またユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）を代表して、全国からご参加の皆様にご心から歓迎のご挨拶を申し上げます。

はじめに、第4回ユネスコスクール全国大会を奈良教育大学を会場として開催する機会を与えていただきました文部科学省、日本ユネスコ国内委員会に感謝申し上げますとともに、共催されますNPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、ご後援いただきました諸団体はじめ、この全国大会の開催にご協力いただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

日本のユネスコスクールは昨年の12月現在で550校になったと伺っています。奈良県では、幼稚園から大学まで33校が加盟していますが、その多くが世界遺産や地域の環境をベースとした持続発展教育（ESD）に取り組んでおり、奈良ASPネットワークを結成して、ユネスコスクール活動の質の向上を図っております。

奈良教育大学は、2007年に日本の大学として初のユネスコスクールとなり、翌年附属中学校も加盟しました。現在、附属小学校と附属幼稚園を含めて全学をあげてESDをベースにしたプロジェクトに日常的に取り組んでいます。

また、奈良教育大学は、日本中のユネスコスクールを支援するユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の事務局を担当しています（平成23、24年度）。ASPUnivNetは、北海道から沖縄までの16大学で構成していますが、ユネスコスクール加盟校や加盟を検討している学校を支援することを目的としていますので、ご要望等がございましたら、ASPUnivNet事務局や各加盟大学にご連絡ください。このことは、日本ユネスコ国内委員会の「ユネスコスクールガイドライン」にも紹介されております。

本日は、奈良教育大学の教職員やユネスコクラブの学生がスタッフとしてサポートいたしますけれども、行き届かないことがあるかもしれません。その時はどうぞスタッフにお申し付けください。

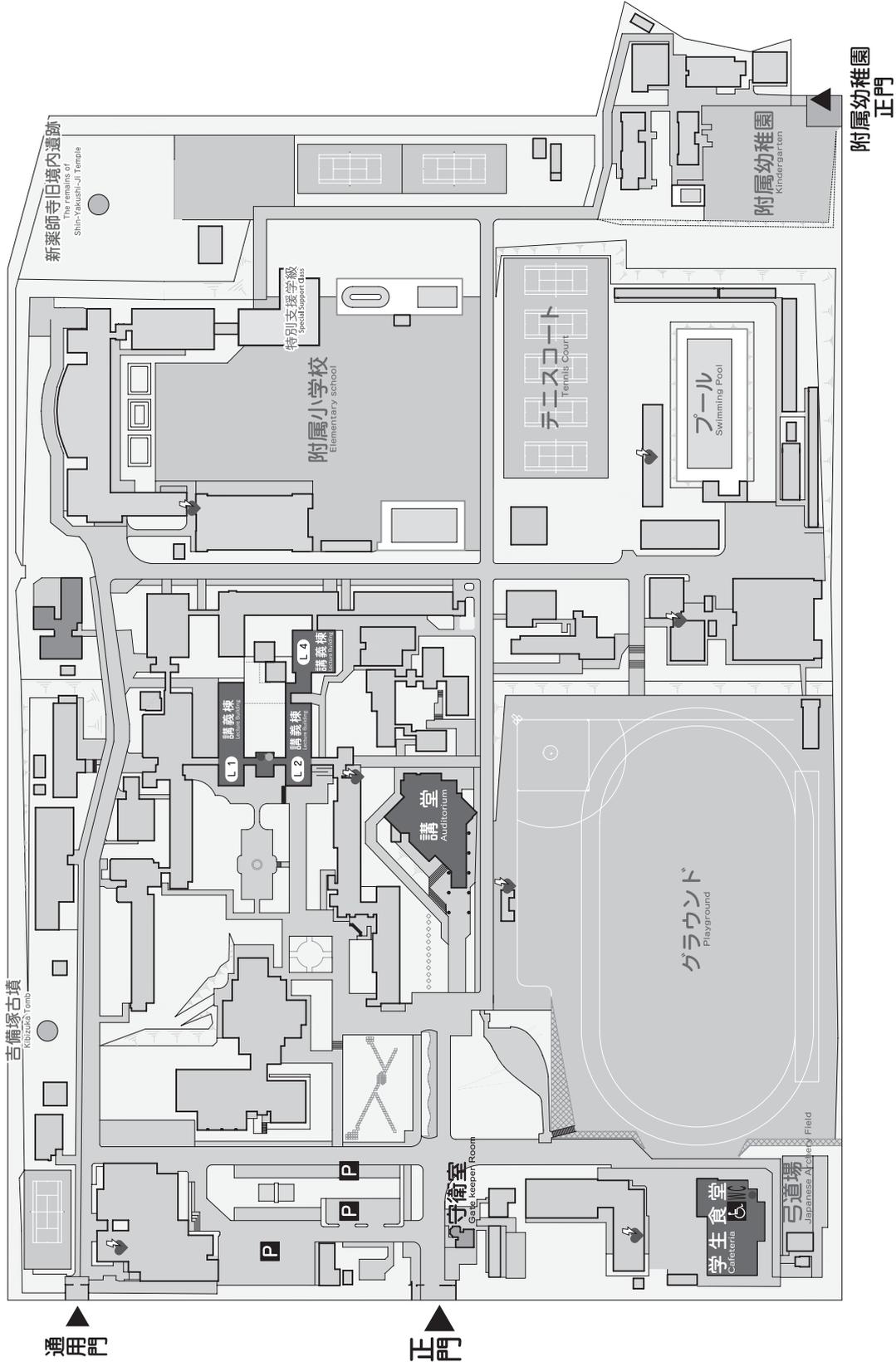
最後に、本日ご参加の皆様にとりまして、ユネスコスクールESD活動の相互交流、その普及と発展、調査研究の充実に向けて、実り多いものになりますことを祈念申し上げまして、会場大学としての挨拶とさせていただきます。

大会日程

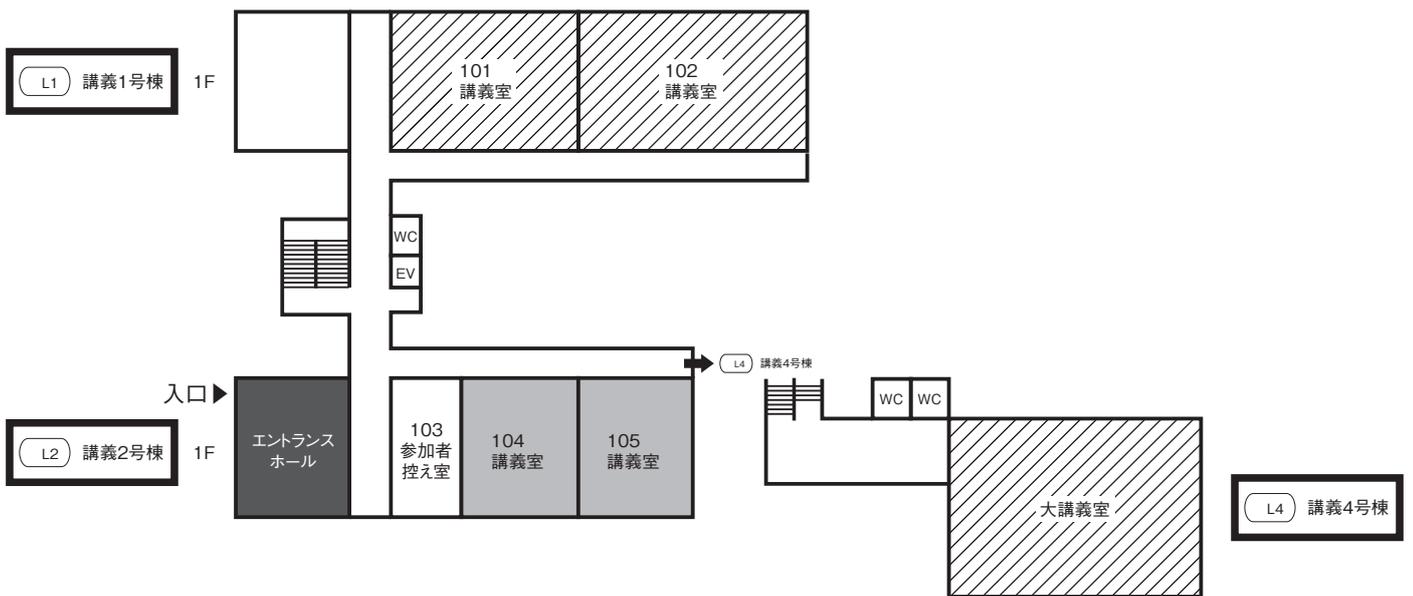
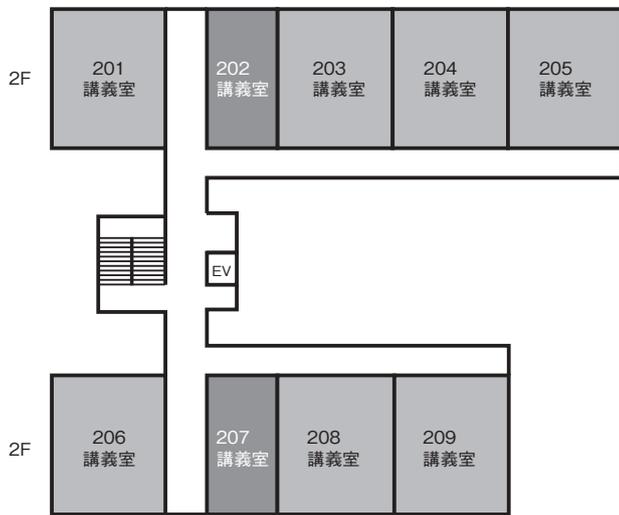
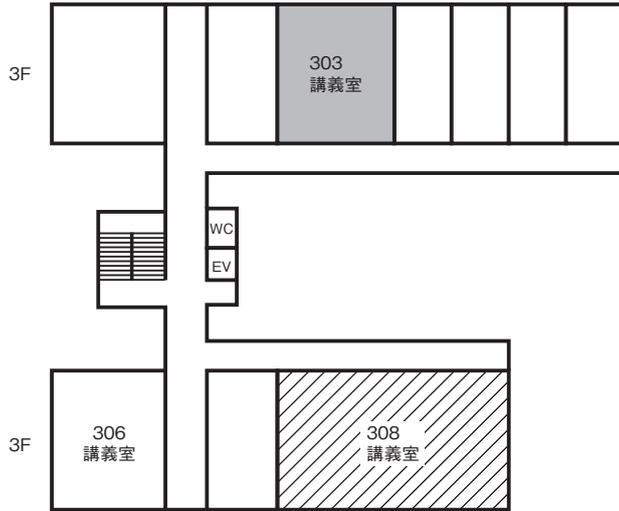
時間	プログラム	会場
09:30～10:00	受付	講堂
10:00～10:20	開会式	講堂
10:20～10:50	2014年持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議に向けて ユネスコスクールガイドラインについて SEAMEO-Japan ESD Award 受賞校による発表（ミャンマー）	講堂
10:50～11:40	特別授業 「語りとESD「声に出して感じる自然のうつくしさ」 特別講師：平野啓子（語り部・かたりすと／ 初代日本ユネスコ国内委員会広報大使） 学校：奈良教育大学附属中学校1年生	講堂
11:40～13:00	ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動の紹介） ※昼食を準備いたします 同時開催：ESD関連団体による展示	講義棟 101、 102、308、 大講義堂
13:00～14:40	テーマ別交流研修会 ①地域・博物館・企業・NPO等との連携 ②大学との連携を通じた質の向上 ③-1 学校間交流 国内 ③-2 学校間交流 海外 ④ESDの校内浸透・連携と活動の継続性 ⑤-1 教科・学習指導要領とのリンク（幼小） ⑤-2 教科・学習指導要領とのリンク（中高） ⑥コミュニケーション能力・問題解決能力とESD ⑦国際理解教育 ⑧環境教育・生物多様性 ⑨ESDと評価	講義棟 104、 105、201、 213、204、 205、206、 208、209、 303、306
14:50～15:20	交流研修会 全体報告会	講堂
15:20～16:40	シンポジウム 「グローバル社会に通用する人材をESDでどのように育てるか」 プロジェクト型（RICEプロジェクト）、自治体主導型（教育委員会）、ユネスコスクールの実践、の3事例報告と協議	講堂
16:40～17:00	持続発展教育（ESD）大賞表彰式・閉会式	講堂

会場案内

奈良教育大学 建物配置図



奈良教育大学 講義棟



- ランチョンセッション
- 分科会
- 大会運営本部
- 団体展示

クンジャンゴン郡立第一高等学校(ミャンマー)について

～第1回SEAMEO-Japan ESD Award 受賞～

1. 学校概要：生徒数：1,458名（1～11学年）。

初等レベル：116名、前期中等レベル：758名、後期中等レベル：584名

2. 事業概要：「クンジャンゴン郡立第一高等学校防災計画・活動」

2008年5月に同校はサイクロンで被害を受け、生徒2名が死亡。同校は、防災活動を開始した。

2012年度は、区役所・町役場、学校評議員会、PTA、生徒会、教員、生徒、保護者、警備担当者、地域住民の参加を得て、学校防災計画（SDMP）を策定し、関係者に共有した。防災教育活動は、学校行事カレンダーに盛り込まれ、定期的にモニタリングを実施予定。2012-2013年度は同計画に基づき活動を行う。

3. SEAMEO-Japan ESD Award：

文部科学省は、2011年度にSEAMEOに拠出し、SEAMEO加盟国内におけるESDの促進を目的として、ESDの推進にあたって顕著な取組を行っている東南アジアの小・中・高等学校を表彰するために設立したものである。第1位の優秀校には、日本のユネスコスクールとの交流を深めるため、日本訪問の機会を提供している。

第1回目となる2012年は、「防災」をテーマに、防災教育に取り組む学校を表彰。2012年11月のSEAMEO高級実務者会合にて第1回表彰式が行われた。

4. 第1回SEAMEO-Japan ESD Award受賞校

第1位 学校名：クンジャンゴン郡立第一高等学校（ミャンマー・ヤンゴン市）

事業名：クンジャンゴン郡立第一高等学校防災計画・活動

第2位 学校名：イリラナン小学校（フィリピン・西ネグロス）

事業名：イリラナン防災教育プログラム及び学校及びコミュニティの防災準備・設備

第3位 学校名：ジェジェラン州立イスラム小学校（MINジェジェラン）（インドネシア・ジョクジャカルタ市）

事業名：災害は我々の敵ではない—MINジェジェランにおける防災活動実施に向けた学校コミュニティの動員

特別賞（150人以下の小規模学校に対する三菱東京UFJ銀行からの特別賞）

学校名：ワット・スムポアトン学校（タイ・スパンブリ州）

事業名：地域の技術に基づいて自然と共存する人生の幸福

特別授業(講堂) 10:50 ~ 11:40

語りとESD 「声に出して感じる自然のうつくしさ～やまなしを中心に～」



特別講師
平野 啓子 (ひらの けいこ)

語り部・かたりすと／初代日本ユネスコ国内委員会広報大使
◇大阪芸術大学放送学科教授
◇武蔵野大学非常勤講師 (伝統文化研究)

【プロフィール】

静岡県沼津市出身。早稲田大学在学中にミス東京に選ばれる。卒業後、東京都歴史文化財団職員を経て、「NHK ニュースワイド」「NHKニュースおはよう日本」のキャスターや大河ドラマ「毛利元就 (本編)」、「義経 (紀行)」で語りを務める。他にも教育テレビ「NHK短歌」、「日本の伝統芸能鑑賞入門」を始め、数多くの番組で司会、語り手、ナレーションを行う。日本ユネスコ国内委員会委員を6年間歴任し、平成24年に初代日本ユネスコ国内委員会広報大使、ESDオフィシャルサポーターに就任。

【活動紹介】

放送人となる以前より、語りを鎌田弥恵氏に、朗読を故山内雅人氏に師事し、現在は、名作・名文を暗誦する語り芸術家として舞台やテレビで活躍している。特に舞台では古典から現代まで名作の語りを総合芸術として光や音響、季節の風物を生かし独自の世界を切り開き、空間エンターテインメントを創造。中国北京、韓国ソウル等、国内外で公演、日本の文化や日本語の美しさを紹介するなど語りの世界に新境地を開き高い評価を得ている。

【受賞歴】

文化庁芸術祭大賞、松尾芸能賞優秀賞、ギャラクシー賞奨励賞、徳川夢声市民賞、平成22年度文化庁長官表彰等各賞受賞。

【著作物等】

文化講演、コラムやエッセイ執筆などでも幅広く活躍。太宰治生誕100年記念語りCD「走れメロス」をはじめ、語り・朗読のCD「藪の中 (芥川龍之介) / 山月記 (中島敦作)」、DVD「瀬戸内寂聴 源氏物語の男君たち」語り (アネック)、DVD「平家物語～祇王」(ハゴロモ) 等多数刊行。著書に「兼好に恋して徒然草に学ぶ」(あすろ出版)、「短歌のこころ 語りの心」(リヨン社)、「平野啓子の語り美人」(大和出版)などがある。「災害を語り継ぐ～困難を生き抜いた人々の話 全11話～ (内閣府/防災・歴史の専門学者と共著)」が昨年刊行されたばかり。

対象生徒：奈良教育大学附属中学校1年生、奈良教育大学ユネスコクラブ

授業者：平野 啓子 初代日本ユネスコ国内委員会広報大使

「文字化されるよりも、まず声があったはずだ。声を大切にしよう。声には感情も込めることができる。声は体全体で表現し、体全体で感じるものだ。ESDの学びは体全体。ESDの学びは参加だ。」

【授業内容とポイント】

○清少納言「枕草子」から

有名な「春はあけぼの～」の語りを、平野啓子先生（語り部・かたりすと）の指導で生徒が行う。
春と夏に関しては手話にもチャレンジ。文学を通して、からだ全体で日本の美しさを感じよう。

○宮沢賢治「やまなし」から

全国に通じる宮沢賢治の描く世界を、先生の指導のもと、生徒たちが分かち読みなどを通し理解する。
大人になると、自然体験があったかどうかで宮沢賢治作品への印象が全くことなる現実がある。

子どものうちの体験こそが大事。

その契機となるよう、文学を通して地域の美しい自然・風景にふれようとする意欲化を図る。

役割を決めて「語る」

映像で視覚化を図る。（地元にもある賢治の世界）

また、宮沢賢治の普遍的な世界観は、実は身近な地域にもあることを視覚も通して体感することを目指す。

○奈良の民話「ふしぎな旅人」の紹介

○宮沢賢治「雨ニモマケズ」

声を発すると元気になる。子どもたちが持っている芯がしっかりする。

心に悩みをもった子どもたちは声を出そう。会場の参加者とともに、声を出そう。

あわせて、近代農業を推進した賢治の思いを想像してみてください。

テーマ別交流研修会(講義棟 1~3階) 13:00 ~ 14:40

分科会 (教室)	テ ー マ	事例発表者
第1分科会 (104)	地域・博物館・企業・NPO等との連携	奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校 教頭 井本 章子
第2分科会 (203)	大学との連携を通じた質の向上	宮城県黒川郡大和町立鶴巣小学校 教諭 池山 潤子
第3分科会① (204)	学校間交流 国内	岡山県岡山市立第三藤田小学校 教諭 藤澤 正宏
第3分科会② (105)	学校間交流 海外	東京都杉並総合高等学校 校長 三橋 信也
第4分科会 (201)	ESDの校内浸透・連携と活動の継続性	宮城県気仙沼市立面瀬小学校 教諭 岩槻 仁
第5分科会① (205)	教科・学習指導要領とのリンク (幼小)	新潟大学教育学部附属幼稚園 松井 陽一 新潟大学教育学部附属長岡小学校 教諭 丸山 悦子 新潟大学教育学部附属長岡中学校 教諭 神子 尚彦
第5分科会② (208)	教科・学習指導要領とのリンク (中高)	石川県金沢市立泉中学校 教諭 浜中 真希
第6分科会 (206)	コミュニケーション能力・問題解決能力とESD	香川県三豊市立下高瀬小学校 教諭 萬亀 弘吉
第7分科会 (306)	国際理解教育	愛知県立豊田東高等学校 教諭 奥田 紀子
第8分科会 (209)	環境教育・生物多様性	東京都大田区立大森第六中学校 教諭 柴崎 裕子
第9分科会 (303)	E S D と 評 価	宮城県気仙沼市立階上中学校 教諭 戸羽 康幸

第1分科会 地域・博物館・企業・NPO等との連携

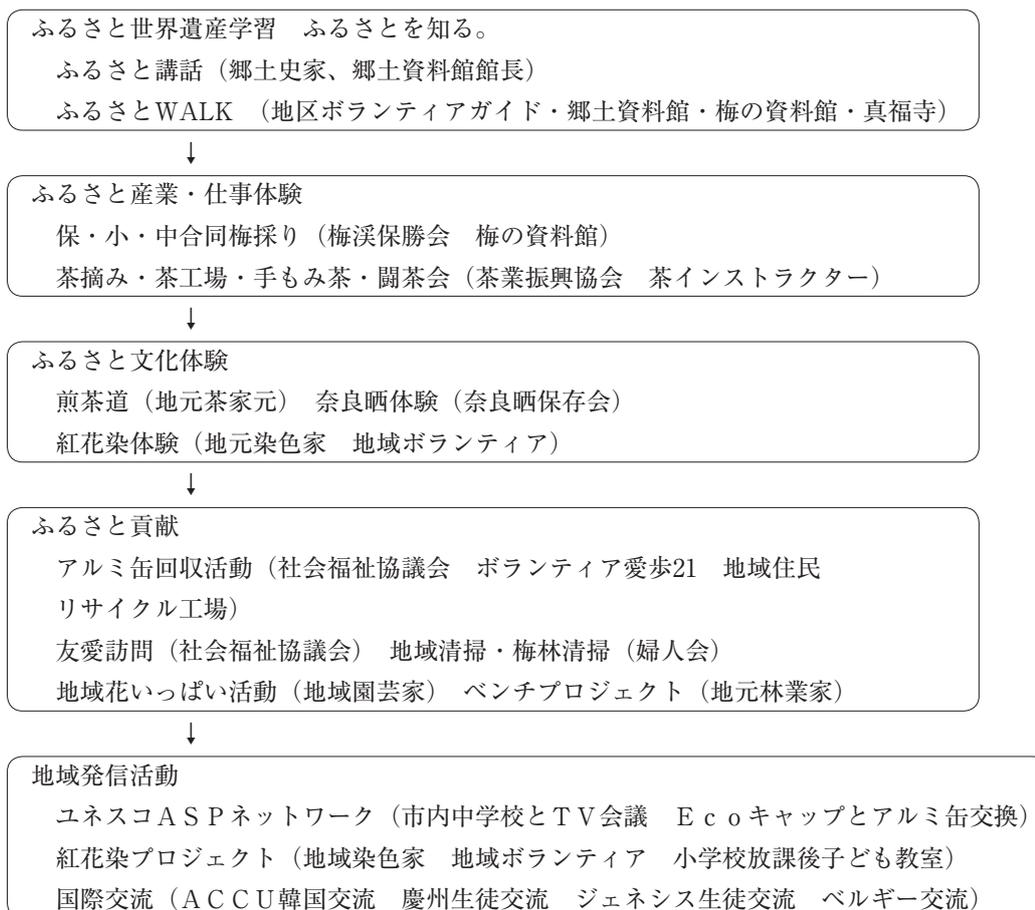
地域と共にESD活動

井本 章子（奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校 教頭）

月ヶ瀬中学校は生徒数49名の小規模僻地校。7年前奈良市と統合。昔から地域の繋がりを大切にし、人情が厚く、支援を受けやすい環境にある。月ヶ瀬中学校のESDの取り組みは、そのほとんどがユネスコスクールへの加盟（2009年）以前から取り組んできた。アルミ缶を地域ぐるみで集めて車いすを福祉施設に贈るアルミ缶回収活動や独居老人宅を訪問する友愛訪問など17年間継続。地域をあげて学校に協力する姿勢がある。バラバラな活動として続けられたものをESDの視点でとらえなおすことで、月ヶ瀬中学校の基本的な柱「故郷に夢と誇りを持つ」を再構築した。「郷土を知る→体験→行動→世界へ」を実践。

地域支援体制を構築し、継続的に実施できるようになる。

※（ ）連携・協力グループ



毎年2月「社会福祉フェスティバル」で生徒会はアルミ缶回収報告をし、車いすを寄贈、地域より感謝状をいただく。この中で達成感を感じ、来年度へ意欲を持つ。地域ぐるみのESD活動に感謝する。

第2分科会 大学との連携を通じた質の向上

宮城教育大学と鶴巣小学校との連携 ～ハロー！ライスプロジェクト～

池山 潤子（宮城県黒川郡大和町立鶴巣小学校）

1. 鶴巣小学校の学校教育目標

「進んで学ぶ 心やさしく たくましい 子どもの育成」

平成24年度よりユネスコスクールに加盟し、特にESD（持続発展教育、この地球で生きていく持続可能な社会の担い手を育む教育）に注目し、食育や国際理解教育、自然愛護及び環境保全活動の充実を図っている。

2. 宮城教育大学との連携の事例

学年・題材	時期	実践内容	大学からの協力・支援
5学年 ライスプロジェクト	7月	米作り体験学習について、インターネット通信電話スカイプを通じて韓国の小学校と交流会を行った。	交流相手校を探し、日程等委細の調整、パソコン通信環境の整備、日韓語の通訳。
	11月	収穫祭に海外研修生が来訪し、実践発表、餅つきや鶴巣音頭で交流した。	JICAを通じて海外研修生を招致、10ヶ国語の通訳。
4学年 川の活動	6月 9月	学校付近の川に生息する絶滅危惧種の魚の観察・調査	教授・学生20名程度が出張授業、道具や材料の貸与。

3. 連携の成果

- ①小学校だけではできないことができた。
- ②専門知識を得られた。地域の良さを認識できた。
- ③外国の雰囲気を実際に感じさせることができた。

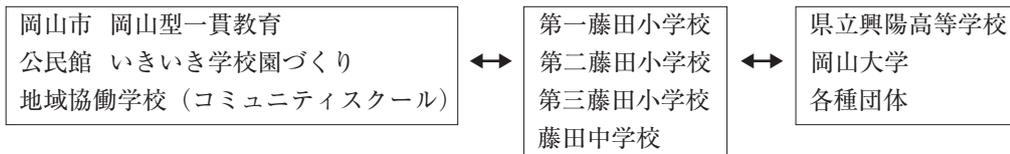


第3分科会① 学校間交流 国内

人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成

藤澤 正宏（岡山県岡山市立第三藤田小学校）

1 地域・学校間連携の概要



2 岡山市立第三藤田小学校での学校間・地域・各種団体連携について

【全体】

- 藤田中学校区E S D連絡会（全5回）
- 各校研究授業への参加
- 地域各種団体との交流事業（田植え・稲刈り・収穫祭等）
- 藤田地区E S D・ユネスコスクール実践発表会（児童発表）
- 学校間で活動実践報告の交流（ビデオ・新聞等）
- ユネスコスクール・E S D行事（まつり・学園祭・フォーラム等）で取組発表

【1・2年生】

- 1・2年生と保育園，地域各種団体交流（いもまつり）
- 地域の農家での苗植え・収穫体験
- 興陽高校見学
- 老人会との交流（さつまいも栽培）

【3年生】

- 地域各種栽培農家取材
- J A岡山婦人部との豆腐づくり体験

【4年生】

- 興陽高校菜の花プロジェクト参加
- 中学生と学区クリーン作戦

【5年生】

- 中学生へのアンケート実施
- 農業後継者との意見交換会
- 興陽高校・岡山大学と農家、J A岡山等フィールドワーク

【6年生】

- 各校・地域にカンボジア支援活動協力依頼（全2回）
- ハートオブゴールド（N G O：有森裕子代表）からのカンボジア留学生受入



（5年生アヒル農法の取材in興陽高校）

3 成果と課題

- ねらいやつけたい力を明確にした上で、交流活動をしたので、多くのつながりができた。
- 教職員・児童が、ただ単に体験活動を行うのではないという意識にかわってきた。地域の方や関係団体にもE S Dが少しずつではあるが浸透してきたようである。
- ただ学校間でそろえるというのではなく、それぞれの学校のよさや地域性を生かしながらより効果的な活動を、考えていく必要がある。
- 子どもたちの価値観を変えるための手立てについての研究や評価については、まだまだである。

第3分科会② 学校間交流 海外

都立杉並総合高等学校の国際交流活動

三橋 信也（東京都杉並総合高等学校 校長）

東京都立杉並総合高等学校では「志を世界に繋ごう」をモットーに国際理解教育に注力している。英語科の教員12名（教員数の25%）の他、総合学科の特徴を生かしスペイン語、フランス語、中国語、韓国語の講座を開設している。語学学習の成果発表の機会として、毎年3月に英語を中心に各国語のスピーチコンテストを行っている。

校長が元貿易商社勤務で海外駐在経験が長いことから、生徒が世界の誰とも違和感なく対話できるように、学校生活のなかで海外と接する機会を多く設定している。

定期的な行事には、シドニーのフォート・ストリート高校姉妹校訪問がある。今年度は本校生徒約20名が2週間、同校の授業に参加し、生徒の家庭にホームステイした。来年度は姉妹校の生徒が来日し、本校生徒の家庭でホームステイする。今年度の訪問では、初めて、引率教員2名のうちの1名を英語科以外とした。英語科以外の多くの教員が国際理解を深めると共に、国際理解教育に携わるべきと考えている。数学科の教員が引率したが、現地で剣道5段の腕前を披露し人気を博した。

他にも、「イングリッシュ・サマーキャンプ」と称し、夏季休業期間中に2泊3日の英語研修を行っている。又、国際交流活動としては、アメリカンスクール訪問、EU講演会、PTA文化国際交流委員会主催の海外事情に係わる講演会（今年度は「マンホール・チルドレン」がテーマであった。）、海外からの高校生訪問受け入れ等がある。特に海外高校生の短期訪問は、台湾・中国・アメリカ・ドイツ・フランスなど多くの国からの生徒を迎え、本校の特色ある授業（日本舞踊・書道・茶道・外国語）を見学したり、クラブ活動にも参加して本校生徒と活発な交流を行った。海外からの留学生も、常時一名は受け入れており、現在はドイツからの留学生が約半年の予定で在学中である。

海外修学旅行の計画については来年度（平成25年度）入学生からの実施を検討している。平成22年度に一度計画したが、国内修学旅行に比べ費用が高く保護者の負担が増すことから断念した経緯がある。現在もその状況に変化はないが、東京都がグローバル人材の育成を重要施策に位置づけていることもあり、何とか費用面の課題を克服し実施したいと考えている。



第4分科会 ESDの校内浸透・連携と活動の継続性

本校におけるESDの校内浸透・連携と活動の継続性

岩槻 仁（宮城県気仙沼市立面瀬小学校）

1 「面瀬川」を活動拠点とした環境教育

本校の環境教育の取り組みは、2002年に始まった。宮城教育大学等の支援を受けながら、「水辺環境と人々の生活」をテーマに米国の小学校との共同プロジェクトを実践した。現在もプログラムを見直しながら、面瀬川での探究活動（写真①）を中心とした環境教育は深化・発展中である。



写真① 面瀬川の生き物調査

2 本校ESDの校内浸透・連携と活動の継続化として

本校のESDが継続できている理由として、生活科・総合的な学習の時間を本校のESDの核となる学習に位置付け、校内研究で取り組んでいることにある。毎年、各学年のプログラムの見直しを行っている（表1）。研究授業も年6回実施している（写真②）。校内研究として取り組むことで共通理解が図られ、協働体制でESDが継続できていると考える。



写真② 6年研究授業

3 実践内容

本校で求めているESDで育みたい資質・能力は、「主体的に学ぶ意欲」「思考力判断力・表現力」である。「①地域人材やNPO等との連携」「②各教科との関連」「③言語活動の充実を図った探究過程の指導を工夫」の3つを視点に、生活科・総合的な学習の指導改善に取り組んでいる。

○実践例（高学年の取り組みから）

高学年では、新聞をつくる過程が、児童の言語力や思考力・判断力、表現力を高めるのに有効と考えた。河北新報社と連携し（写真③）、「新聞作り」を体験させながら環境問題の追究を行った。1学期は、宮城県環境政策課やNPO法人大島大好きの学習をとおして、地球温暖化や消費型社会と循環型社会の理解を深めた。2学期は、取材活動やアンケート調査を行うなどして『地球温暖化防止新聞』にまとめた。3学期は、『環境フェスタ』を開催し、学習したことのまとめを保護者の前で発表した。また、『環境ポスター』を作成し、新聞と共に地域に発信した。活動後の児童の感想から、達成感をもった活動ができたことが分かった（資料1）。

【表1 平成29年度各学年プログラム】

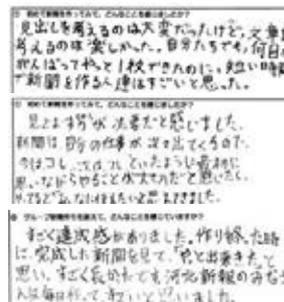
学年	単元名
1	おもせのしきの自然を楽しもう(生活 61h) はなやさいをそだてよう(生活 15h)
2	おいしい野菜を作ろう(生活 90h)
3	レッツゴー！おもせたんけんたい(総合 70h)
4	未来へつなげ！面瀬川の命(総合 70h)
5	探ろう、伝えよう豊かな気仙沼の海(総合 70h)
6	面瀬環境フェスタを聞こう～始めよう、自分たちができること～(総合 70h)



写真③ 「新聞づくり講座」(河北新報社)

4 今後の改善

- ・ ESDの視点に立った学習指導で重視する資質・能力を明確化と学力向上
- ・ 系統立てたプログラム内容の見直しと中学校との連携



資料1 「6年児童の感想から」

第5分科会① 教科・学習指導指導致要領とのリンク（幼稚園、小学校）

幼小中一貫教育カリキュラムのもとで行う社会創造科

～持続可能な社会を創りあげる資質・能力をはぐくむ～

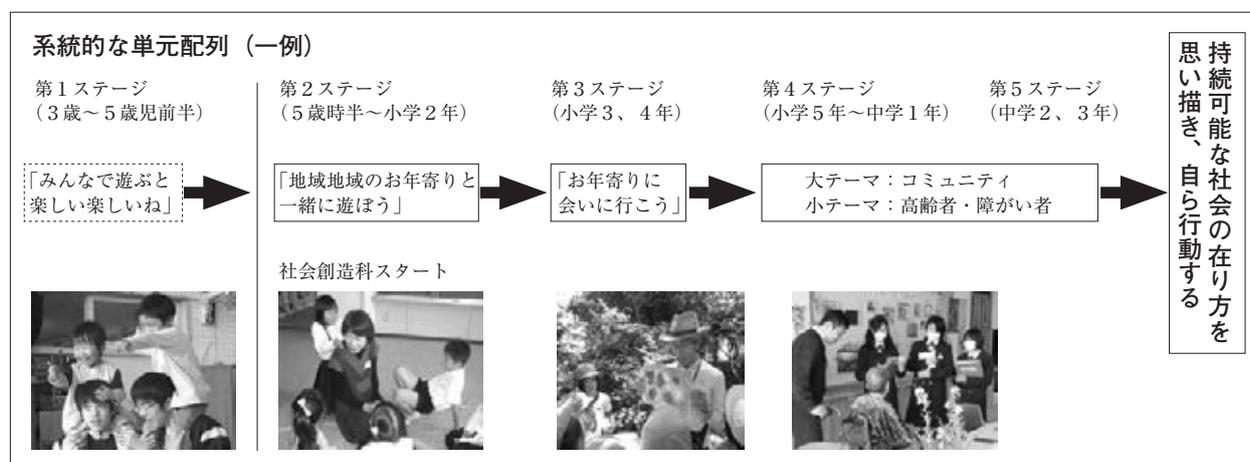
神子 尚彦（新潟大学教育学部附属長岡校園）

1 社会創造科で身に付ける力など

- 持続可能な社会に関する認識・態度
- 自己推進力、人間関係構築力、問題解決力、開発力
- つなぎ創りだす技法・技能（よりよい人間関係を構築する、新しい考え等を発想する技能・技能）

2 幼小中一貫カリキュラム

- ・ 幼小中を5つのステージに分け、それぞれの発達段階に応じたカリキュラムを系統的に編成した。幼小中すべての単元は、最終ステージの4つの大テーマブランド、「まちづくり」、「自然環境」、「コミュニティ」へとつながる。
- ・ 第2ステージでは、身の回りの「ひと・もの・こと」と深くかかわる内容を単元に位置付ける。
- ・ 第3ステージでは、地域と深くかかわる単元構成を行い、それまでの内容を整理し、統合する。
- ・ 第4、第5ステージでは、各テーマから地域の問題をとらえ、持続可能な地域を目指し、地域の人と手を携え、実践的に問題を解決する単元を展開する。



3 「異年齢協働探究型学習」

異年齢の仲間や地域の人と探究的な学びを行い、互惠関係（win-winの関係）を築く「異年齢協働探究型学習」を行う。

子どもたちは、異年齢の仲間や地域の人と問題を共有し、共に解決の方法を考え、実践することで互惠関係を構築していく。また、地域と密接に関わる探究的な学びの中で、現実の問題を自分に引き付けてとらえたり、問題を解決する過程を通して「学習内容」を身に付けたりすることができる。

4 幼児教育と社会創造科の関係

幼児教育の3歳児～5歳児前半は、幼小中12年間の第1ステージに位置付いている。さらに、子どもの発達を考慮し、ステージの中を4つの期に分ける。また、資質・能力のはぐくみを促す心情を「芽」と位置づけ、自己推進力、人間関係構築力を中心に、遊びの中ではぐくむことをねらう。

第5分科会② 教科・学習指導指導致要領とのリンク（中学校、高等学校）

「ともに生きる」力の育成をめざして

浜中 真希（石川県金沢市立泉中学校）

1 概要

本校では、総合的な学習の時間（以下 I T）をESDの視点で見直し、学習している。3年間で6期に分け、「身のまわりの自然」から「地域（金沢）」、「日本」、「世界」へと学習範囲を広げている。そして、自身と環境や社会との関わりを見つめ、「ともに生きる」力の育成をめざしている。

また、生徒会活動を通じてボランティア活動やエコ活動にも取り組み、「学び、考える」から「行動する」ことへと取り組みを広げている。

2 実践内容

（1）I Tでの取り組み

3年間で6期に分け、それぞれのテーマにしたがって学習している。

I期 <自然とともに> 動物園訪問、レポート作成、発表、自然体験学習

II期 <金沢を知ろう> レポート作成、発表、伝統芸能体験、市内自主研修

III期 <人とともに> キャリア体験（職場体験）学習、まとめ、発表

IV期 <日本を知ろう> 班別現地調査プラン作成、発表、修学旅行、まとめ

V期 <世界を知ろう> 講演会、レポート作成、発表

VI期 <社会とともに> 研究テーマの設定、調査研究、発表

それぞれのテーマをより深く探求するため、「テーマ決定」、「テーマの調査研究」、「レポートの作成」、「発表」という流れを基本としている。そして、言語による分析、まとめたり表現したりする学習活動を行っている。また、体験学習も積極的に取り入れている。



II期 金沢を知ろう 伝統芸能体験



生徒会活動 資源回収

（2）生徒会活動での取り組み

資源回収やボトルキャップ集め、Beautiful Town Project(地域清掃活動)やスマイルアフリカプロジェクト等、自主的な取り組みを推進している。

3 成果

I Tでの言語活動や体験学習の充実が、問題解決能力を育み、VI期の研究発表で成果を出している。研究発表では、例えば金沢観光の振興や環境破壊など、いろいろな問題を身近に捉え、情報をまとめる作業にとどまらず、自らの考えを提言するなど、社会を構成する一員としての自覚の高まりが見られる。

また、生徒会活動では、様々な活動を通して今自分ができることを実践する力を育てている。

第6分科会 コミュニケーション能力・問題解決能力とESD

STOP地球温暖化 ―自分たちにできる省エネを発見・実践・発信しよう―

萬亀 弘吉（香川県三豊市立下高瀬小学校）

1 ユネスコスクールとして本校が目指す子ども像

本校はユネスコスクールの理念に賛同し、省エネを核としたエネルギー環境教育を通して、人やものに感謝し、大切に子どもを育成することを通して、持続可能な社会の担い手を育てることを目指してきた。

実践にあたっては「発見」「実践」「関連」「連携」「発信」の5つの活動を大切に展開している。

2 実践内容

①本学習の基盤となっている全校的な省エネ活動の取り組み

- 「下小もったいない憲法」
- 児童会主体の省エネ活動
- 省エネ委員会の啓発活動 など

②総合的な学習の時間の実践例：「夏すずしく過ごすくふうを見つけよう」

キーワード；主体的な発見，協同的な態度の育成

- ア) 喫緊の問題から課題設定。「エアコンを使わず夏すずしく過ごすくふうを見つけよう」
- イ) アイデアを話し合い、類別する。
- ウ) グループテーマ（節電、節水、リサイクル、資源、動植物）にそった省エネの仮説を立てる。
- エ) 仮説を検証する実験を行う。
- オ) ポスターにまとめる。
- カ) 5年生全体で省エネの工夫を発表し合う。意見交流を通して、更に検証すべき課題を明確にする。
- キ) 再実験を行い、新たに見つけた省エネの工夫をポスターに書き加える。
- ク) 文化祭で保護者や地域の方にポスターセッションで提案。



3 成果と課題

- 総合的な学習の時間の実践（上記）を通して、本校の6つの省エネめあてに対して「たいへんよくしている」と答えた児童が最大26%増加していることが示すように、主体的なESDに向かう活動が増えている。
- 活動意欲の継続と更なる向上のために次の2点について今後も継続していく。
 - ①発信の拡充（チャンスをとらえた発信）
 - ②省エネ活動の充実（総合的な学習の時間、特別活動 等）

第7分科会 国際理解教育

「ESDの視点を取り入れた英語授業の実践」

奥田 紀子 (愛知県立豊田東高等学校)

1. 授業概略

学年3年 科目「異文化理解」

2. ねらい

- 世界遺産について書かれた英文を読み、内容理解にとどまらず、そこから浮かび上がる問題に目を向ける。
- 環境問題、平和、人権などの社会問題を様々な視点から考え、理解を深め、それを自分の問題としてとらえ、「自分に何ができるか」を考え行動につなげていくきっかけとする。
- 英語でのコミュニケーション能力を育成する。

3. 授業実践 教科書“THE WORLD HERITAGES” (三友社)

実践例1 Ayer's Rock世界最大の“聖地”

- 【1】教科書の写真を見て英語で描写する 【2】教科書の理解
- 【3】①ユネスコの教材の活用 (DVD) ②調べ学習 (アボリジニ、エアーズ・ロックの抱える問題) ③「エアーズ・ロックに登りたいか」という質問に対し、意見を英語で述べる。



授業風景

実践例2 VENICE水の都の物語

- 【1】“Italy”のbrain storming 【2】教科書の理解
- 【3】①“Impact Issues2” (Longman) Unit2 Traffic Jamを活用 [How “green” are you?] 目的地への交通手段についてペアでコミュニケーション活動②豊田市に暮らす自分たちが車と環境についてどう行動できるか考え発表。

実践例3 グループ研究「私のまちのたからもの」

- 【1】行事や残したい伝統を題材にフィールドワーク
- 【2】学んだことや感じたことをもとに「世界へ発信」を目標に作品制作。



フィールドワークの様子

4. 成果と課題

従来の英語の授業では「教科書を教える」ことに多くの時間を費やし、コミュニケーション活動も道案内など実用的な練習が多かったが、ESDの視点を取り入れることで「教科書で教える」授業になったと感じる。生徒たちが意義深い内容、正しい解答のない話題について英語を使って生き生きとコミュニケーションをとり、課題に取り組む姿を見ることができた。

本当の意味での英語のコミュニケーション能力の育成には批判的に考える力、英語力、さらに仲間とともに協力することが欠かせない。英語教育にはまさにESDの視点が重要な役割を果たすと改めて感じた。全校で行う総合発表会では生徒が自らの取り組みを英語で発表し、他学年の生徒もこれらの学びを共有でき貴重な場となった。

課題としては他教科との連携、教師の指導力向上、教員間の協力があげられる。英語の教師は英語という手段を用いて様々な事柄を扱うことができるが、歴史など専門知識の必要な領域も多くあり、他教科との連携が不可欠である。また、英語教師がContent-based teachingについての理解と技術を向上させる必要がある。そしてESDの視点から、3年間の英語の授業を通して卒業時に生徒にどのような英語力を身に付けさせるのか深く議論をする場が必要であると感じる。



総合発表会の様子

第8分科会 環境教育・生物多様性

地域の学びから、世界の学びへ ~ホタル復活プロジェクト・ボランティア農援隊~

柴崎 裕子（東京都大田区立大森第六中学校）

○防災拠点整備事業モデル校

2011年3月東日本大震災以前より行っていた避難所開設訓練が評価を受け、大田区防災拠点整備事業モデル校となった。避難する場所から、災害に立ち向かう場所としての機能を果たすため、中学生ができることを区民のリーダーとなって、行動できるように訓練している。

○ホタル復活プロジェクト

環境調査を行い、ヘイケボタルの幼虫を校舎内で飼育、本校に隣接する洗足池の水生植物園に放流し自生を目指す。昭和の初期に生息していたホタルが絶滅してしまったため、再びホタルの光が舞うことを地域の人を楽しみにしている。初年度は210匹のうち150匹を放流し、数匹しか成虫にならなかった。今年度は400匹の幼虫をほとんど死なさずに放流し、100匹以上が成虫となり、光を放った。都会の中で防犯上真っ暗にできないため、極力明かりを落とした状態でホタルが光る様子は、地域の方からこの活動に対する大きな関心と期待が込められている。

○すべての教室に新聞を

地域の新聞販売所に協力していただき、3学年全クラスに毎朝新聞を置いている。クラスで世界情勢や自分の気になる記事について話し合い、意見を持つことで、他者への理解を深める機会となっている。

○環境ボランティア

長期休業日には、小中一貫教育として小学生と一緒に洗足池清掃を行い、校区を取り巻く環境について学習している。また、自然科学部が水質調査や樹木調査をして環境の指標を小学生に教え、ヒトの持ちこんだ外来種により生態系が崩れていることなどを訴えている。ほかに、洗足風致協会の協力でローボートの漕ぎ方を教わり、水難事故防止にも寄与している。

○生徒会による環境活動

生徒会は、エコキャップを回収し、書き損じはがきを集めるなど、生徒会役員と各種委員長の集まったユネスコ委員会も活動を深めている。毎週金曜日は生徒会が中心となって洗足池周辺の清掃を実施、全校生徒365名の約3分の1が毎回参加している。

また、秋には落ち葉はきを毎朝行い、農援隊が作ったミミズコンポストに落ち葉をためている。コンポストでできた腐葉土を使って、夏はゴーヤのグリーンカーテンを作り、節電に協力している。とれたゴーヤは、給食に入れて食べる。



第9分科会 ESDと評価

私たちは未来の防災戦士

～「自助・公助・共助」の学びと「つながり」の大切さを通して～

戸羽 康幸（宮城県気仙沼市立階上中学校）

ねらい

災害発生時および発生後に、自分の身を守るためにできることや、地域の一員として地域住民と協力してできることは何かを中学生の視点から考え、防災意識を家庭から地域へと波及できる防災リーダーを育成する。

年度ごと自助・公助・共助と活動をサイクルし、今年度は共助がテーマであったが、震災を踏まえ、自分の身を守る力を一層伸ばしていくために「自助を基盤にした共助」をテーマとした。

実践内容

緊急地震速報を使った一次・二次避難訓練

校庭の仮設住宅居住者との合同訓練

階上中学校区防災教育推進委員会

「地域との共助体制をいかにつくるか」という点に基づき、学区内にある組織や自治会のリーダー30名に集まっただき、推進会議を2回開いた。その後も必要に応じて打合せなどを行いながら将来に向けて継続的に学校と地域との連携を図る実行的な体制づくりを行った。

学年毎体験活動

- 1年生 津波体験館見学
- 2年生 応急手当・救急救命講習
- 3年生 小学生への防災啓発活動

ショート避難訓練

落下物や転倒物、移動物から身を守る初期対応訓練

地域で実施した訓練への参加（生徒が校外にいたことを想定）

全校生徒が参加し、以下のポイントを踏まえて取り組んだ。

- ・避難経路、避難場所の確認
- ・避難者名簿の作成を通して住民の人数を把握
- ・非常持ち出し袋の意見交換
- ・自治会長から地区の様子を聞く

避難所設置訓練（生徒が校内にいた場合を想定）

生徒会で組織した対策本部を中心に、体育館の区分け、畳やマットを敷く、救護スペースの設置、物資（飲料水）の配給などの訓練を行った。

成果

これらの学習が、12月7日に発生したM7.3の地震の際に活かされた。放課後、部活動等で残っていた生徒は、壁際に移動したり、机や椅子で頭部を守ったりするなどの避難行動へ素早く移行した。また、300人を越える地域住民が避難してきたが、生徒は避難所の設営をはじめ、避難者名簿の作成や毛布の配布などを率先して行った。

津波警報が解除され、避難所の機能を終えた後は、中学生と地域住民が協力して片付けをする「共に助け合う」姿を見ることができた。



<階上中学校区防災教育推進委員会>



<小学生への防災啓発活動（紙芝居）>



<12 / 7避難者の受付をする中学生>



<12 / 7毛布を配布する中学生>



<12 / 7避難所の後片付け>

「グローバル社会に通用する人材をESDでどのように育てるか」

平成24年度 日本／ユネスコパートナーシップ事業

ASPUnivNet 「Rice(おこめ)プロジェクト」について

宮城教育大学 (ASPUnivNet 「Rice プロジェクト」事務局担当校) 川崎 惣一

ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク) では、これまでのユネスコスクール活動支援に加えて、ユネスコスクールとしての国境を越えた学校間交流を促進するために、「Rice(おこめ)プロジェクト」を展開しています。具体的には、アジア共通の「Rice(おこめ)プロジェクト」として、植物としての稲の生育や、稲作と環境・生物多様性、稲作と地域の伝統文化・芸能・祭事、稲作と食文化・食の安全などをテーマとした、国内外のユネスコスクール間の交流活動が促進されるようサポートしています。こうした国内および国際的な交流を通して、文化の多様性に触れるとともに、「おこめ／イネ」がこれまで自国の文化や歴史、環境のなかで果たしてきた役割を学ぶことで、未来の持続可能な社会の実現にむけて国境を越えた学びあいを促進することができます。

具体的な活動内容としては、単なるイベントではなく、アジア各国のユネスコスクールが参加する継続的なプロジェクトとしての定着を図るため、次の3つの柱をもとにした活動を実施しています。

①国内のユネスコスクール間での活動

国内のユネスコスクールが実施している「おこめ／イネ」に関連する学習の様子や成果について情報交換する機会を設けます。また、すでに「Rice」をテーマに国外のユネスコスクールと交流している学校の取組みを紹介し、それをモデルに多くのユネスコスクールがプロジェクトに参加してくれるよう促します。

②国外のユネスコスクールとの交流活動

国内のユネスコスクールのなかで、「Rice」をテーマとして国外のユネスコスクールと交流してみたい、という学校があれば、ASPUnivNet の加盟大学が交流先となる国外のユネスコスクールを紹介し、交流活動が軌道に乗るまでサポートします。

③国際的な調査活動

「Rice プロジェクト」に参加している海外のユネスコスクールの訪問や、プロジェクトに参加する国・学校を募るため、適宜、海外調査を実施します。現在、「Rice プロジェクト」には韓国、タイのユネスコスクールが参加しています。

～奈良発！ESDの提案～

「地域のたからものから学ぶ世界遺産学習」

奈良市教育委員会 学校教育課 石原 伸浩

奈良市の世界遺産学習とESD

奈良市では、平成21年に「奈良市教育ビジョン」を策定し、「奈良らしい教育」の中核に『世界遺産学習』を位置づけ、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子の育成」に取り組んでいる。この世界遺産学習がもつESDとしての特色は3つある。

- ①自らの地域に誇りをもつことは、持続可能な社会の担い手となるための原動力である。
- ②学びを通して、社会を切り拓きたくましく生き抜く力を育むことができる。
- ③地域のたからものを守り受け継いできた先人の思いや営みに触れることは、現在と未来を考えることにつながる。

教育委員会として

世界遺産学習を「奈良らしい教育」の中核に位置づけ、世界遺産学習の意義を明確にし、学校に対する支援体制の充実を図る。

- ビジョンの明確化
 - ・教育ビジョンの中核に
 - ・推進委員会における評価と改善
 - ・全国に仲間を求めて（全国組織の設立）
- 支援体制の充実
 - ・副読本、ティーチャーズガイドの作成
 - ・作業部会における実践事例の開発
 - ・全国サミット、研修会等の開催



第2回世界遺産学習全国サミット
「子ども会議」より

～姉妹校とのペンパルアクティビティを通して～

対話によって育まれる国際理解

広島県立広島井口高等学校 教諭 永尾 和子

1, はじめに

①二つの姉妹校

アイエア高校(米国・ハワイ州) とエリザベスカレッジ(オーストラリア・タスマニア州)

②国際交流とESDの視点

2, ACTI (アクトアイ) のプラン

①ACTI (1) ACTI (2) の系統性

②コミュニケーション能力の育成

3, 文型ACTI (2)

①ESDの基本的考え方 (日本ユネスコ委員会)

②分野ごとのグループ学習

国際・人権・環境分野 医療・看護・福祉分野

政治・経済・法律分野 教育・歴史・文化分野

③ACTI (2) のプログラム

a 「切り抜き新聞制作」

b 「英字新聞」

c 「ペンパルアクティビティ」

d 「バイリンガルプレゼンテーション」

4, ペンパルアクティビティとクロスアート

①文通活動 オープンマインドの獲得

②クロスアート 互いの違いを認め合う テーマ 「水」(平成23年度)「遊び」 (平成24年度)

③相互作用 アイエア高校の変化

5, 英字新聞「The Inokuchi Guardian」

①地元新聞社との連携

②「切り抜き新聞」「校外研修」の活用…取材の充実

6, バイリンガルプレゼンテーション

①英語力・プレゼン能力の向上

②国際社会に生きる

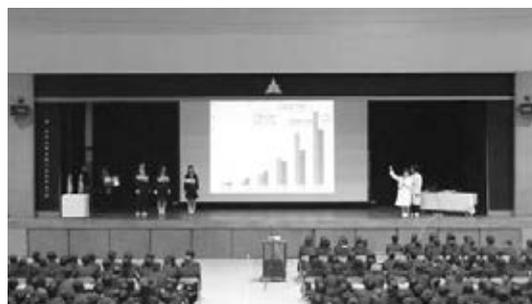
7, 終わりに



両校生徒の集合写真 (アイエア高校中庭)



クロスアート (アイエア高校体育館)



バイリンガルプレゼンテーション (体育館)

ランチセッション(講義棟1～3階) 11:40～13:00

企 業 名	テ ー マ	会 場
MSD株式会社	科学者のルールを伝える訪問授業 「サイエンス・スクール」	講義棟 101
全国農業協同組合連合会	「田んぼの生きもの調査」	
OMソーラー株式会社	「校舎も理科教育、環境教育の教材」	講義棟 102
P & G ジャパン株式会社	「P & G 環境教室～水と生活～」	
カシオ計算機株式会社	「命の授業」の取り組み	講義棟 大講義室
株式会社ユニクロ	“届けよう、服のチカラ” プロジェクト	
サントリーホールディングス株式会社	サントリー水育 (みずいく) 「出張授業」	講義棟 308
LIXILリフォームネット	「台所 (キッチン) で遊ぼう、学ぼう」	

“科学者のルール”を社員が伝える訪問授業「サイエンス・スクール」

持続発展教育の一環として実施している「サイエンス・スクール」は、製薬会社であるMSDが日本ユネスコ協会連盟さんとパートナーシップを組み、2011年から実施しているプログラムです。

いのちと健康をテーマにした、小学5・6年生対象の90分授業では、病気の原因や治療法を発見した科学者のエピソードや体験学習を通じて、“科学者のルール”「観察する・仮説を立てる・仮説を証明する」プロセスを楽しく学んでいただきます。くすり作り体験として、軟膏づくりも体験していただきます。これまで受講した約900名の児童の授業後アンケートでは、90%以上が「将来に役立つ」と回答しています。

基本的な考え方である“科学者のルール”が、いのちや健康を支える実社会で生かされていることを体感してもらうことで、子供達が科学への関心を持つきっかけとなることを願って実施しています。

<お問合せ先>

MSD株式会社 広報部門 TEL：03-6271-1001（担当：小松）

E-mail：msd.science.school@merck.com



OMソーラー株式会社

「校舎も理科教育、環境教育の教材」

OMソーラーは太陽熱を暖房と給湯に利用するソーラーシステムで、住宅2万5000棟、学校や病院などの施設建築650棟の導入実績があります。学校建築へのOMソーラーの導入は、日々の省エネ効果とともに、災害時の防災拠点として利用される際にもその効果を発揮します（画像参照）。また、学校生活の中で太陽エネルギーを体感することによる教育・啓発効果も期待でき、「建築」「エネルギー」「暮らし」といったテーマは、地域における気候風土の中で育んできた文化や知恵を学ぶきっかけにもなると考えています。

2004年の社屋完成後は、総合学習の授業の小学生から、建築を学ぶ大学生、さらに一般市民や企業・自治体を対象に、建物見学と体感を組み合わせたプレゼンテーションや、ソーラークッカーを持参した小学校の出前授業を行っています。このように体感と組み合わせた説明は、年齢に関係なく興味を持ってもらうことができるため、その後の日常生活においても、エネルギーや温熱環境を意識し、自ら工夫するきっかけを与えられるような内容を目指して取り組んでいます。

<問い合わせ先>

OMソーラー株式会社 村田昌樹 TEL：053-488-1700

E-mail：murata@omsolar.jp



文部科学省「自然の恵みを活用したエコスクール」より

「命の授業」の取り組み

持続可能な社会の実現を望み、2007年6月に立ち上げた出前授業「命の授業」は、2013.1.25現在で、施行期間を含め、小・中学校を主体に、延べ174の機関（幼稚園～大学、NPO、PTA等）、14,642名を数えました（2012年度は東日本大震災で被害を受けた北関東以北の小・中学校6校でも実施）。全ての社会事象に内在する「命の大切さ」を伝えることで、将来のリーダーたる子どもたちの、社会及び地球環境への意識を喚起し、持続発展教育を根幹とした社会の実現へ思いを馳せております。授業の根幹は、「全てとの絆」、「命のつながり」、そして、「心の成長」に置いており、又、「真実」を伝えることで、「気付き」を、“本気で語る”ことで、「意識の醸成」を、そして、“変革を促す”ことで、子供たちの「行動」を喚起することを目指したものでございます。文部科学省主催のシンポジウム、及び全国からご要請を頂く各地域での講演活動にも繋がっており、父兄の方々との触れ合いも通じ、大人社会への発信も同時進行しております。本授業が、真の持続可能な社会実現への糸口となり、広く社会に浸透することを願い、今後も積極的な活動を展開して参ります。

<問い合わせ先>

カシオ計算機株式会社 CSR推進室 若尾 久 TEL:03-5334-4901



サントリーホールディングス株式会社

自然と水をテーマにした体験型学習 サントリー水育（みずいく）「出張授業」

サントリーホールディングス(株)は、次世代環境教育「水育」活動を2004年から展開しています。水の恵みを製品に生かしてお客様にお届けする企業だからこそ、豊かな自然とそこから生まれる水を未来に引き継ぐために、原料である水の品質にこだわり、水を大切に使うだけでなく、水を育む森を守り（「天然水の森」）、水の大切さを次世代に伝える「水育」活動を行っています。「水育」は水の大切さに気づき、水を守るために自ら考え行動する子どもたちの育成を目的とした体験型学習プログラムで、天然水のふるさとで開催する自然体験教室「森と水の学校」と、小学校で実施する「出張授業」の二つが活動の柱です。水育「出張授業」は“未来に水を引き継ぐために”をテーマに、小学校の教室で4～5年生を対象に、実験や映像を通して、モノづくりの現場で水を大切に扱っていることや、水を育む森を守る取り組みを紹介し、未来に水を引き継ぐために子どもたち自身に何ができるかを考えてもらいます。2012年までに630校約48,000名の児童に参加いただきました。

<問い合わせ先>

サントリーホールディングス株式会社 エコ戦略本部 森 揚子
TEL:03-5579-1164



水育「森と水の学校」



水育「出張授業」

「田んぼの生きもの調査」～五感を通じて「農の営み」を学ぶ～

全農では、経営理念の一つである「地球の環境保全に積極的に取り組みます」にもとづき、「田んぼの生きもの調査」に取り組んできました。水田は、単にお米を生産するだけでなくメダカやドジョウ、カエルなど多様な生きものを育ててきました。この活動は、田んぼに足を踏み入れたときの水の冷たさや風の涼しさを実感し生きものに触れることから生物多様性の意義やいのちをいただくことの大切さを五感をフル動員しつつ考えてみようという活動です。このほかにも野菜や稲の植え付けと収穫を行なう「農業体験ツアー」、保育園、幼稚園、小・中・高校での「食育授業」、食材について学びながら調理実習を行なう「親子料理教室」、スポーツ支援活動としての「少年野球教室」「ガールズバスケットボールキャンプ」など未来を担う子どもたちに農業の大切さを知ってもらうため様々SR活動に取り組んでいます。なお、詳しい活動内容は、全農ホームページまで。

www.zennoh.or.jp

<問い合わせ先>

全国農業協同組合連合会（JA全農）

広報部広報SR課：山崎、作山

〒100-6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号

TEL：03-6271-8056 FAX：03-5218-2506



P&Gジャパン株式会社



P&Gは、世界で事業を展開する生活消費財メーカーであり、アリエールやバンテーンなどを展開する一方、サステナビリティ（持続可能性）を重視し、社会貢献活動にも力を入れています。ESD推進については、当社のもつ水に関する知識を生かして作成した「P&G環境教室～水と生活～」という出張授業プログラムを提供しています。本プログラムの内容は学習指導要領に基づいており、実際の学校の授業と関連づけながら、当社が製品開発から培った水の知識を組み込み、クイズや実験などとおして総合的に目と体で感じながら学べます。本社のある兵庫県で2008年よりスタートし、現在は工場のある群馬県高崎市でも行っています。また2009年から全国の小学校向けに、授業用パワーポイント・テキスト・学習の手引きの無償配布を継続しています。

現在、兵庫県の小学校で延べ117校8,713人、高崎市で13校802人に向けて出張授業を行い、全国469校93,238人に学習セットを配布しました。

今後も、本プログラムを当社の社会貢献活動の中心として、拡大したいと考えております。

<問い合わせ先>

P&G環境教室 教材事務局

TEL：03-3541-1058



“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

ユニクロでは、2006年より、不要になったユニクロ商品のリユース・リサイクルを行う『全商品リサイクル活動』を実施しております。回収した衣料は主に、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じて、世界中の難民・避難民のもとに届けられます。

全商品リサイクル活動の一環として、小・中・高校と連携し、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを実施しています。本プログラムは、ユニクロ社員が出張授業を実施し、服のチカラや、寄贈した服がどのように役立てられているのかレクチャーをします。その後、生徒さん自身が校内や地域に呼びかけて、服の回収を行ないます。衣料の寄贈後には、ユニクロから難民キャンプでの寄贈レポートを各学校に共有します。

学校関係者からは、「国際問題や環境問題への関心や理解を深めることにつながった。」「地域とのつながりが強くなった。」「社会貢献への意識が変わった」などご好評を頂いております。未来を担う子どもたちにこの活動を通して、社会に貢献できるチカラを感じ取ってもらうことができればと思います。

<問い合わせ先>

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト事務局 TEL:03-5565-6551

E-mail:fukunochikara@fastretailing.com



LIXILリフォームネット



LIXILリフォームネットは、優れた商品とサービスを通じて、豊かで快適な住生活の未来に貢献するLIXILが支援する、地元根ざしたリフォーム会社の集まりです。2010年より「次世代教育支援」として、台所を通じて、家族や働くことの大切さを学習する教材キット『台所（キッチン）で遊ぼう、学ぼう』をNPO法人日本持続発展教育推進フォーラムと協働で制作し、これまで全国400校を超える小学校で活用いただいております。

東京家政学院大学 長谷徹教授のご協力の元、小学校だけでなく大学の授業でも本教材を用いた教材研究をしていただきました。道徳、食育、教育をよりグローバルにと、小学校の英語教育でもご活用いただけるようと、本もご用意しました。これからも、子供たちに家族が集まる生活の拠点である『台所（キッチン）』を通じて、教科・領域横断的にESDの理念でもある、『持続可能な社会を担う』一員として、「家族との暮らし=生きること」の重要性を実感してもらうことを目指してまいります。より多くの方にご活用いただけることを祈願します。

<問い合わせ先>

教材事務局 TEL:03-5565-5695



協力：東京家政学院大学、港区立麻布小学校

ユネスコスクール一覧 (2012年12月現在)

区分	学 校 名	都道府県	市町村
幼稚園	湖畔幼稚園	北海道	釧路市
	わかばフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	みはらフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	愛国フレンド幼稚園	北海道	釧路市
	清泉幼稚園	北海道	室蘭市
	羅臼町立羅臼幼稚園	北海道	羅臼町
	羅臼町立春松幼稚園	北海道	羅臼町
	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県	気仙沼市
	かおり幼稚園	山梨県	甲斐市
	愛知教育大学附属幼稚園	愛知県	名古屋
	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立六条幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立二名幼稚園	奈良県	奈良市
鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県	佐賀市	
小学校	厚岸町立太田小学校	北海道	厚岸町
	石狩市立生振小学校	北海道	石狩市
	石狩市立双葉小学校	北海道	石狩市
	恵庭市立松恵小学校	北海道	恵庭市
	江別市立対雁小学校	北海道	江別市
	千歳市立緑小学校	北海道	千歳市
	千歳市立末広小学校	北海道	千歳市
	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道	釧路市
	斜里町立峰浜小学校	北海道	斜里町
	羅臼町立羅臼小学校	北海道	羅臼町
	羅臼町立春松小学校	北海道	羅臼町
	留寿都村立留寿都小学校	北海道	留寿都村
	宮城教育大学附属小学校	宮城県	仙台市
仙台市立中野小学校	宮城県	仙台市	
角田市立東根小学校	宮城県	角田市	
中学校	気仙沼市立水梨小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立浦島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立新城小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立中井小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立白山小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立階上小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立松岩小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立月立小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立落合小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県	気仙沼市
気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立九条小学校	宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立小原木小学校	宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立馬籠小学校	宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立津谷小学校	宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立大谷小学校	宮城県	気仙沼市	
栗原市立高清水小学校	宮城県	栗原市	
白石市立白石第二小学校	宮城県	白石市	
白石市立白川小学校	宮城県	白石市	
白石市立小原小学校	宮城県	白石市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小学校	大崎市立鳴子小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鬼首小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立大貫小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台第二小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立沼部小学校	宮城県	大崎市
	大和町立鶴巣小学校	宮城県	大和市
	富谷町立日吉台小学校	宮城県	富谷町
	丸森町立金山小学校	宮城県	丸森町
	新庄市立北辰小学校	山形県	新庄市
	新庄市立新庄小学校	山形県	新庄市
	新庄市立沼田小学校	山形県	新庄市
	高崎市立六郷小学校	群馬県	高崎市
	藤岡市立美九里西小学校	群馬県	藤岡市
	前橋市立大胡東小学校	群馬県	前橋市
	熊谷市立久下小学校	埼玉県	熊谷市
	熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県	熊谷市
	さいたま市立新開小学校	埼玉県	さいたま市
	市川市立中山小学校	千葉県	市川市
	市川市立稲越小学校	千葉県	市川市
	市川市立鶴指小学校	千葉県	市川市
	市川市立大野小学校	千葉県	市川市
	市原市立辰巳台西小学校	千葉県	市原市
	千葉市立白井小学校	千葉県	千葉市
	荒川区立尾久宮前小学校	東京都	荒川区
	葛飾区立青戸小学校	東京都	葛飾区
	江東区立東雲小学校	東京都	江東区
	江東区立八名川小学校	東京都	江東区
	新宿区立西戸山小学校	東京都	新宿区
	世田谷区立中里小学校	東京都	世田谷区
	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都	練馬区
	聖心女子学院初等科	東京都	港区
	目黒区立五本木小学校	東京都	目黒区
	小笠原村立小笠原小学校	東京都	小笠原村
	小笠原村立母島小学校	東京都	小笠原村
	稲城市立稲城第二小学校	東京都	稲城市
	稲城市立向陽台小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第六小学校	東京都	稲城市
	清瀬市立清明小学校	東京都	清瀬市
	多摩市立永山小学校	東京都	多摩市
多摩市立西落合小学校	東京都	多摩市	
多摩市立貝取小学校	東京都	多摩市	
多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都	多摩市	
多摩市立北諏訪小学校	東京都	多摩市	
多摩市立南鶴牧小学校	東京都	多摩市	
多摩市立東寺方小学校	東京都	多摩市	
多摩市立多摩第二小学校	東京都	多摩市	
多摩市立多摩第三小学校	東京都	多摩市	
多摩市立東愛宕小学校	東京都	多摩市	
多摩市立連光寺小学校	東京都	多摩市	
多摩市立大松台小学校	東京都	多摩市	
多摩市立多摩第一小学校	東京都	多摩市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村		
小	多摩市立聖ヶ丘小学校	東京都	多摩市		
	多摩市立瓜生小学校	東京都	多摩市		
	調布市立布田小学校	東京都	調布市		
	横浜市立永田台小学校	神奈川県	横浜市		
	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県	鎌倉市		
	新潟市立下山小学校	新潟県	新潟市		
	新潟市立上山小学校	新潟県	新潟市		
	柏崎市立北鯖石小学校	新潟県	柏崎市		
	佐渡市立相川小学校	新潟県	佐渡市		
	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県	十日町市		
	見附市立見附小学校	新潟県	見附市		
	見附市立田井小学校	新潟県	見附市		
	見附市立上北谷小学校	新潟県	見附市		
	見附市立見附第二小学校	新潟県	見附市		
	見附市立今町小学校	新潟県	見附市		
	見附市立名木野小学校	新潟県	見附市		
	見附市立葛巻小学校	新潟県	見附市		
	見附市立新潟小学校	新潟県	見附市		
	新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟県	長岡市		
	富山市立中央小学校	富山県	富山市		
	富山市立寒江小学校	富山県	富山市		
	富山市立五福小学校	富山県	富山市		
	富山市立光陽小学校	富山県	富山市		
	氷見市立朝日丘小学校	富山県	氷見市		
	富山市立堀川小学校	富山県	富山市		
	学	金沢市立浅野川小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立朝日小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立金石町小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立材木町小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立四十万小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立田上小学校	石川県	金沢市	
		金沢市立戸板小学校	石川県	金沢市	
		校	金沢市立野町小学校	石川県	金沢市
			金沢市立森山町小学校	石川県	金沢市
			金沢市立弥生小学校	石川県	金沢市
	金沢市立中央小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立花園小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立鞍月小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立三馬小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立味噌蔵町小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立三谷小学校		石川県	金沢市	
	金沢市立長坂台小学校		石川県	金沢市	
金沢市立西小学校	石川県		金沢市		
金沢市立大野町小学校	石川県		金沢市		
金沢市立押野小学校	石川県		金沢市		
金沢市立内川小学校	石川県		金沢市		
金沢市立湯湧小学校	石川県		金沢市		
金沢市立十一屋小学校	石川県		金沢市		
金沢市立明成小学校	石川県		金沢市		
金沢市立千坂小学校	石川県		金沢市		
金沢市立夕日寺小学校	石川県	金沢市			
金沢市立栗崎小学校	石川県	金沢市			

区分	学 校 名	都道府県	市町村	
小	金沢市立犀川小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立南小立野小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立伏見台小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立扇台小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立泉野小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立小立野小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立米泉小学校	石川県	金沢市	
	金沢市立杜の里小学校	石川県	金沢市	
	輪島市立三井小学校	石川県	輪島市	
	内灘町立向栗崎小学校	石川県	内灘町	
	内灘町立清湖小学校	石川県	内灘町	
	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県	内灘町	
	内灘町立大根布小学校	石川県	内灘町	
	内灘町立西荒屋小学校	石川県	内灘町	
	能美市立粟生小学校	石川県	能美市	
	坂井市立鳴鹿小学校	福井県	坂井市	
	南アルプス市立芦安小学校	山梨県	南アルプス市	
	岐阜市立島小学校	岐阜県	岐阜市	
	静岡サレジオ小学校	静岡県	静岡市	
	学	あま市立甚目寺小学校	愛知県	あま市
		安城市立里町小学校	愛知県	安城市
		岡崎市立梅園小学校	愛知県	岡崎市
		岡崎市立常磐南小学校	愛知県	岡崎市
		岡崎市立城南小学校	愛知県	岡崎市
		岡崎市立男川小学校	愛知県	岡崎市
		名古屋市立東築地小学校	愛知県	名古屋市
		名古屋市立愛知小学校	愛知県	名古屋市
		名古屋市立有松小学校	愛知県	名古屋市
		名古屋市立八熊小学校	愛知県	名古屋市
	愛知教育大学附属名古屋小学校	愛知県	名古屋市	
	椋山女学園大学附属小学校	愛知県	名古屋市	
	校	西尾市立西尾小学校	愛知県	西尾市
		東浦町立緒川小学校	愛知県	東浦町
		鈴鹿市立飯野小学校	三重県	鈴鹿市
		鈴鹿市立神戸小学校	三重県	鈴鹿市
		鈴鹿市立牧田小学校	三重県	鈴鹿市
		名張市立蔵持小学校	三重県	名張市
		名張市立名張小学校	三重県	名張市
		名張市立箕曲小学校	三重県	名張市
		名張市立桔梗が丘小学校	三重県	名張市
		名張市立薦原小学校	三重県	名張市
		名張市立国津小学校	三重県	名張市
彦根市立城西小学校		滋賀県	彦根市	
京都市立上賀茂小学校		京都府	京都市	
京都市立乾隆小学校		京都府	京都市	
京都市立紫竹小学校		京都府	京都市	
京都市下京涉成小学校		京都府	京都市	
京都市立梅津北小学校		京都府	京都市	
大阪市立御幸森小学校		大阪府	大阪市	
豊中市立上野小学校	大阪府	豊中市		
豊中市立新田小学校	大阪府	豊中市		
豊中市立桜井谷小学校	大阪府	豊中市		

区分	学校名	都道府県	市町村
小	松原市立三宅小学校	大阪府	松原市
	松原市立恵我南小学校	大阪府	松原市
	河内長野市立美加の台小学校	大阪府	河内長野市
	奈良市立飛鳥小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立帯解小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立済美小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立佐保川小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立椿井小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鳥見小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立二名小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立佐保小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鼓阪小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立済美南小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鶴舞小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立都跡小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鼓阪北小学校	奈良県	奈良市
学	橿原市立今井小学校	奈良県	橿原市
	和歌山市立広瀬小学校	和歌山県	和歌山市
	田辺市立三栖小学校	和歌山県	田辺市
	矢掛町立三谷小学校	岡山県	矢掛町
	矢掛町立中川小学校	岡山県	矢掛町
	矢掛町立矢掛小学校	岡山県	矢掛町
	岡山市立第一藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立第三藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立第二藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立蛍明小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立建部小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立足守小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立竹枝小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福渡小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立甲浦小学校	岡山県	岡山市
校	岡山市立小串小学校	岡山県	岡山市
	広島大学附属小学校	広島県	広島市
	大竹市立栗谷小学校	広島県	大竹市
	海田町立海田東小学校	広島県	海田町
	北広島町立豊平東小学校	広島県	北広島町
	北広島町立新庄小学校	広島県	北広島町
	福山市立内海小学校	広島県	福山市
	福山市立駅家西小学校	広島県	福山市
	四万十町立七里小学校	高知県	四万十町
	三豊市立下高瀬小学校	香川県	三豊市
	松山市立新玉小学校	愛媛県	松山市
	藍住町立藍住南小学校	徳島県	藍住町
	藍住町立藍住北小学校	徳島県	藍住町
	藍住町立藍住西小学校	徳島県	藍住町
	藍住町立藍住東小学校	徳島県	藍住町
	大牟田市立駛馬南小学校	福岡県	大牟田市
大牟田市立駛馬北小学校	福岡県	大牟田市	
大牟田市立笹原小学校	福岡県	大牟田市	
大牟田市立天道小学校	福岡県	大牟田市	
大牟田市立玉川小学校	福岡県	大牟田市	

区分	学校名	都道府県	市町村	
小	大牟田市立上官小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立大正小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立中友小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立明治小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立白川小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立平原小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立高取小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立三池小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立銀水小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立上内小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立吉野小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立倉永小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立手鎌小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立大牟田小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立羽山台小学校	福岡県	大牟田市	
	大牟田市立みなと小学校	福岡県	大牟田市	
学	大牟田市立天領小学校	福岡県	大牟田市	
	玄海町立有徳小学校	佐賀県	玄海町	
	玄海町立値賀小学校	佐賀県	玄海町	
	宇城市立小川小学校	熊本県	宇城市	
	宇城市立海東小学校	熊本県	宇城市	
	校	札幌市立手稲西中学校	北海道	札幌市
		北海道教育大学附属札幌中学校	北海道	札幌市
		北広島市立西部中学校	北海道	北広島市
		羅臼町立羅臼中学校	北海道	羅臼町
		羅臼町立春松中学校	北海道	羅臼町
		仙台市立南吉成中学校	宮城県	仙台市
		岩沼市立岩沼中学校	宮城県	岩沼市
		大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県	大河原町
		大河原町立大河原中学校	宮城県	大河原町
		角田市立角田中学校	宮城県	角田市
		気仙沼市立面瀬中学校	宮城県	気仙沼市
気仙沼市立気仙沼中学校		宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立鹿折中学校		宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立階上中学校		宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立新月中学校		宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立唐桑中学校		宮城県	気仙沼市	
気仙沼市立大島中学校	宮城県	気仙沼市		
気仙沼市立条南中学校	宮城県	気仙沼市		
気仙沼市立小原木中学校	宮城県	気仙沼市		
気仙沼市立松岩中学校	宮城県	気仙沼市		
気仙沼市立大谷中学校	宮城県	気仙沼市		
気仙沼市立津谷中学校	宮城県	気仙沼市		
学	白石市立小原中学校	宮城県	白石市	
	白石市立白川中学校	宮城県	白石市	
	白石市立東中学校	宮城県	白石市	
	白石市立南中学校	宮城県	白石市	
	大崎市立田尻中学校	宮城県	大崎市	
	大崎市立古川北中学校	宮城県	大崎市	
	南三陸町立志津川中学校	宮城県	南三陸町	
	大仙市立大曲南中学校	秋田県	大仙市	
	新庄市立新庄中学校	山形県	新庄市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 学 校	足利市立山辺中学校	栃木県	足利市
	宇都宮市立一条中学校	栃木県	宇都宮市
	越谷市立富士中学校	埼玉県	越谷市
	成田市立玉造中学校	千葉県	成田市
	大田区立大森第六中学校	東京都	大田区
	江東区立深川第一中学校	東京都	江東区
	江東区立第二南砂中学校	東京都	江東区
	聖心女子学院中等科	東京都	港区
	稲城市立稲城第四中学校	東京都	稲城市
	多摩市立東愛宕中学校	東京都	多摩市
	多摩市立諏訪中学校	東京都	多摩市
	多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩中学校	東京都	多摩市
	多摩市立和田中学校	東京都	多摩市
	多摩市立青陵中学校	東京都	多摩市
	多摩市立鶴牧中学校	東京都	多摩市
	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	神奈川県	鎌倉市
	横浜市立市ヶ尾中学校	神奈川県	横浜市
	新潟市立巻東中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立白新中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立横越中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立赤塚中学校	新潟県	新潟市
	新潟市立宮浦中学校	新潟県	新潟市
	見附市立今町中学校	新潟県	見附市
	長岡市立南中学校	新潟県	長岡市
	新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県	長岡市
	南魚沼市立大巻中学校	新潟県	南魚沼市
	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県	富山市
	金沢市立紫錦台中学校	石川県	金沢市
	金沢市立泉中学校	石川県	金沢市
	金沢市立芝原中学校	石川県	金沢市
	金沢市立内川中学校	石川県	金沢市
	金沢市立小將町中学校	石川県	金沢市
	金沢市立兼六中学校	石川県	金沢市
	内灘町立内灘中学校	石川県	内灘町
	小松市立板津中学校	石川県	小松市
	七尾市立能登香島中学校	石川県	七尾市
	七尾市立朝日中学校	石川県	七尾市
	能美市立根上中学校	石川県	能美市
	敦賀気比高等学校附属中学校	福井県	敦賀市
南アルプス市立芦安中学校	山梨県	南アルプス市	
信州大学教育学部附属松本中学校	長野県	松本市	
伊豆市立天城中学校	静岡県	伊豆市	
静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県	島田市	
岡崎市立竜南中学校	愛知県	岡崎市	
岡崎市立新香山中学校	愛知県	岡崎市	
名古屋市立丸の内中学校	愛知県	名古屋市	
名古屋市立汐路中学校	愛知県	名古屋市	
名古屋市立笹島中学校	愛知県	名古屋市	
鈴鹿市立神戸中学校	三重県	鈴鹿市	
鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県	鈴鹿市	
三重大学教育学部附属中学校	三重県	津市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 学 校	名張市立北中学校	三重県	名張市
	名張市立南中学校	三重県	名張市
	東近江市立五個荘中学校	滋賀県	東近江市
	豊中市立第十一中学校	大阪府	豊中市
	豊中市立第二中学校	大阪府	豊中市
	寝屋川市立寝屋川第十中学校	大阪府	寝屋川市
	松原市立松原第七中学校	大阪府	松原市
	尼崎市立成良中学校	兵庫県	尼崎市
	奈良教育大学附属中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立興東中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立三笠中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立柳生中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立平城西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立二名中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立都南中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立京西中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄中学校	奈良県	奈良市
	橿原市立畝傍中学校	奈良県	橿原市
	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県	和歌山市
	岡山市立藤田中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福田中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立建部中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立光南台中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立京山中学校	岡山県	岡山市
	岡山市立足守中学校	岡山県	岡山市
	山陽女学園中等部	広島県	廿日市市
	広島大学附属中学校	広島県	広島市
	広島市立古田中学校	広島県	広島市
	如水館中学校	広島県	三原市
	周南市立太華中学校	山口県	周南市
	防府市立佐波中学校	山口県	防府市
	大牟田市立船津中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立右京中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立米生中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立勝立中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立延命中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立松原中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立白光中学校	福岡県	大牟田市
	大牟田市立歴木中学校	福岡県	大牟田市
大牟田市立田隈中学校	福岡県	大牟田市	
大牟田市立橘中学校	福岡県	大牟田市	
大牟田市立甘木中学校	福岡県	大牟田市	
北九州市立尾倉中学校	福岡県	北九州市	
福岡市立元岡中学校	福岡県	福岡市	
宇城市立不知火中学校	熊本県	宇城市	
北谷町立北谷中学校	沖縄県	北谷町	
北海道登別明日中等教育学校	北海道	登別市	
釧路市立山花小中学校	北海道	釧路市	
標茶町立中茶安別小中学校	北海道	標茶町	
斜里町立ウトロ小中学校	北海道	斜里町	
宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県	仙台市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
中 高 一 貴 校 等	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県	多賀城市
	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県	仙台市
	茨城県立並木中等教育学校	茨城県	つくば市
	市川中学校・市川高等学校	千葉県	市川市
	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県	千葉市
	麗澤中学・高等学校	千葉県	柏市
	東京都足立区興本扇学園	東京都	足立区
	昭和女子大学付属昭和中学校・高等学校	東京都	世田谷区
	田園調布学園中等部・高等部	東京都	世田谷区
	雙葉中学校・高等学校	東京都	千代田区
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都	練馬区
	晃華学園中学校・高等学校	東京都	調布市
	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都	西東京市
	新潟県立燕中等教育学校	新潟県	燕市
	山梨英和中学校・高等学校	山梨県	甲府市
	不二聖心女子学院	静岡県	裾野市
	星陵中学校・高等学校	静岡県	富士宮市
	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県	名古屋市
	立命館守山中学校・高等学校	滋賀県	守山市
	平安女学院中学・高等学校	京都府	京都市
	燈影学園（一燈園小学校・中学校・高等学校）	京都府	京都市
	浪速中学校・高等学校	大阪府	大阪市
	大阪学芸中等教育学校	大阪府	大阪市
	帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校	大阪府	堺市
	箕面市立彩都の丘学園	大阪府	箕面市
	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県	奈良市
	奈良市田原小中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄第三小中学校	奈良県	奈良市
	清心中学校・清心女子高等学校	岡山県	倉敷市
	広島県立広島中学・高等学校	広島県	東広島市
高水高等学校付属中学校／高水高等学校	山口県	岩国市	
高 等 学 校	市立札幌大通高等学校	北海道	札幌市
	札幌山の手高等学校	北海道	札幌市
	北海道遠軽高等学校	北海道	遠軽町
	北海道清里高等学校	北海道	清里町
	北海道斜里高等学校	北海道	斜里町
	海星学院高等学校	北海道	室蘭市
	北海道羅臼高等学校	北海道	羅臼町
	北海道礼文高等学校	北海道	礼文町
	盛岡中央高等学校	岩手県	盛岡市
	宮城県気仙沼高等学校	宮城県	気仙沼市
	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県	気仙沼市
	秋田市立秋田商業高等学校	秋田県	秋田市
	明桜高等学校	秋田県	秋田市
	福島県立安達高等学校	福島県	二本松市
	国際学院高等学校	埼玉県	伊奈町
	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県	坂戸市
	千葉県立市川昂高等学校	千葉県	市川市
	千葉県立国分高等学校	千葉県	市川市
	市原中央高等学校	千葉県	市原市
	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県	佐倉市
千葉県立流山おおたかの森高等学校	千葉県	流山市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	千葉県立千葉東高等学校	千葉県	千葉市
	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都	渋谷区
	東京都立杉並総合高等学校	東京都	杉並区
	筑波大学附属駒場高等学校	東京都	世田谷区
	東京都立三田高等学校	東京都	港区
	聖心女子学院高等科	東京都	港区
	八王子学園八王子高等学校	東京都	八王子市
	慶應義塾高等学校	神奈川県	横浜市
	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県	海老名市
	富山国際大学付属高等学校	富山県	富山市
	福井工業大学附属福井高等学校	福井県	福井市
	新潟県立国際情報高等学校	新潟県	南魚沼市
	岐阜聖徳学園高等学校	岐阜県	岐阜市
	静岡県立伊豆総合高等学校	静岡県	伊豆市
	愛知県立刈谷高等学校	愛知県	刈谷市
	愛知県立豊田東高等学校	愛知県	豊田市
	愛知県立千種高等学校	愛知県	名古屋市長
	名古屋市立山田高等学校	愛知県	名古屋市
	中部大学第一高等学校	愛知県	日進市
	三重県立木本高等学校	三重県	熊野市
	大阪府立北淀高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立住吉高等学校	大阪府	大阪市
	明浄学院高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立西淀川高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立市岡高等学校	大阪府	大阪市
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府	池田市
	大阪府立佐野高等学校	大阪府	泉佐野市
	大阪府立長野高等学校	大阪府	河内長野市
	羽衣学園高等学校	大阪府	高石市
	大阪府立能勢高等学校	大阪府	能勢町
大阪府立枚方高等学校	大阪府	枚方市	
大阪府立松原高等学校	大阪府	松原市	
大阪府立北摂つばさ高等学校	大阪府	茨木市	
大阪府立富田林高等学校	大阪府	富田林市	
神戸市立葺合高等学校	兵庫県	神戸市	
兵庫県立三木北高等学校	兵庫県	三木市	
奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県	斑鳩町	
和歌山県立星林高等学校	和歌山県	和歌山市	
和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県	串本町	
島根県立島根中央高等学校	島根県	川本町	
岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県	岡山市	
岡山学芸館高等学校	岡山県	岡山市	
岡山龍谷高等学校	岡山県	笠岡市	
岡山県美作高等学校	岡山県	津山市	
岡山県立矢掛高等学校	岡山県	矢掛町	
岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県	和気町	
広島大学附属高等学校	広島県	広島市	
広島県立広島国泰寺高等学校	広島県	広島市	
広島県立広島井口高等学校	広島県	広島市	
山陽高等学校	広島県	広島市	
広島県立尾道北高等学校	広島県	尾道市	
広島県立呉三津田高等学校	広島県	呉市	

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	山陽女学園高等部	広島県	廿日市市
	広島県立福山誠之館高等学校	広島県	福山市
	広島県立安芸府中高等学校	広島県	府中町
	如水館高等学校	広島県	三原市
	広島県立三次高等学校	広島県	三次市
	広島県立府中高等学校	広島県	府中市
	香川県立観音寺中央高校	香川県	観音寺市
	香川県立高松桜井高等学校	香川県	高松市
	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県	新居浜市
	福岡県立城南高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立香住丘高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立ひびき高等学校	福岡県	北九州市
	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県	筑紫野市
大 学	国立大学法人宮城教育大学	宮城県	仙台市
	玉川大学（教育学部）	東京都	町田市
	愛知教育大学	愛知県	刈谷市
	国立大学法人三重大学	三重県	津市
	国立大学法人奈良教育大学	奈良県	奈良市
高専	国立石川工業高等専門学校	石川県	津幡町
養護 学校	見附市立見附特別支援学校	新潟県	見附市
	大牟田市立大牟田特別支援学校	福岡県	大牟田市
そ の 他	練馬和光保育園	東京都	練馬区
	もみの木保育園太子堂	東京都	世田谷区
	もみの木保育園若葉台	東京都	稲城市
	もみの木保育園長峰	東京都	稲城市
	ナーサリー富田幼児園	徳島県	徳島市
	東京賢治シュタイナー学園	東京都	立川市
	横浜シュタイナー学園	神奈川県	横浜市
	京田辺シュタイナー学校	京都府	京田辺市
コリア国際学園	大阪府	茨木市	

持続発展教育(E S D)大賞 Education for Sustainable Development Award

NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムでは、持続発展教育(ESD: Education for Sustainable Development)の取り組みを実践する学校を奨励する「持続発展教育(ESD)大賞」を実施しています。

本事業は、全国の小・中・高等学校から実践的研究事例を募り、持続発展教育に該当する実践を奨励するとともに、その輪を広げ、日本の持続発展教育の推進に寄与することを目指し、実施するものです。

本大会閉会式にて受賞校の表彰式を行います。また受賞内容は、ESDの実践教材として「受賞校実践集」にまとめていますので、ぜひご覧ください。

なお、本年度の持続発展教育(ESD)大賞には、カシオ計算機株式会社様よりご協力いただいております。

第3回持続発展教育(E S D)大賞 受賞校

持続発展教育(E S D)大賞
東京都江東区立八名川小学校

ユネスコスクール最優秀賞
東京都大田区立大森第六中学校

小学校賞
宮城県角田市立東根小学校

中学校賞
奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校

高等学校賞
愛知県立豊田東高等学校

審査委員特別賞
宮城県気仙沼市立面瀬小学校

協力企業一覧(50音順)

MSD株式会社
OMソーラー株式会社
カシオ計算機株式会社
サントリーホールディングス株式会社
全国農業協同組合連合会
P&Gジャパン株式会社
株式会社ユニクロ
LIXILリフォームネット

展示団体一覧(50音順)

ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会
岡山市ESD最終年会合準備室
文部科学省国際統括官付(日本ユネスコ国内委員会)

一般社団法人FEEJapan
特定非営利活動法人開発教育協会
独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊
ジャパンアートマイル
日米教育委員会
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

第4回ユネスコスクール全国大会 持続発展教育(ESD)研究大会 抄録集

発行日：平成25年1月26日

発行：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

<http://www.jp-esd.org>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-40

電話 03-3295-7051

FAX 03-3295-7054

E-mail: info@jp-esd.org



「ESDの実践上の課題解決に向けて」

